

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・高学年においては、6年生に昨年度課題が見られた分度器の読み方の理解を含めた角の大きさや作図など図形に関する問題は、少人数指導や基礎内容の反復練習などの効果がみられ、目標値と同程度まで正答率が上がった。
- ・单元ごとにレディネステストを活用し、児童の希望を聞きながら実態に合ったコースを展開することができた。
- ・タブレットドリルやドリルパークなどの活用が定着してきて、児童が自分で未定着の既習事項に関して復習しやすい環境ができた。

(2) 課題

- ・学年が上がるに従って、主体的に学習に取り組む態度が低くなっている。
- ・図形を見て、その面積や体積を求める、小数や分数の計算など基礎的な知識が定着していない。
- ・割合など伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり、グラフを読み取ったり、数量関係を考えて解決する問題が苦手である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）評価の記号は、「△…上回っている」「▼…下回っている」「≒…同程度」

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	<p>ほとんどの項目において目標値と比較すると上回るまたは同程度の項目が多かった。</p> <p>観点別では、主体的に学習に取り組む態度だけが目標値と比較すると同程度と評価された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的に学習に取り組む ≒ 	/	/
第5学年	<p>ほとんどの項目において区・全国平均正答率や目標値を上回った。</p> <p>領域別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係△ ・データ活用△ <p>観点別でも、3観点共に区・全国平均正答率や目標値を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能 △ ・思考・判断・表現 △ ・主体的に学習に取り組む △ 	<p>ほとんどの項目において、目標値を上回った。</p> <p>領域別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係△ ・データ活用△ <p>観点別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的に学習に取り組む ≒ <p>目標値と比較すると上回るか、同程度という結果になった。</p>	/

<p>第6学年</p>	<p>ほとんどの項目において目標値と同程度または上回っているという結果だった。</p> <p>領域別（目標値比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と計算 ≍ ・図形 ≍ ・変化関係 ≍ ・データ活用 ≍ <p>観点別（目標値比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識技能 ≍ ・思考判断表現 ≍ ・主体的に学習に取り組む ≍ <p>という結果になった。</p>	<p>ほとんどの項目において目標値を上回った。</p> <p>領域別（目標値比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係 △ ・データ活用 ▼ <p>観点別（目標値比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的に学習に取り組む △ <p>という結果になった。</p>	<p>すべての項目において目標値を上回った。</p> <p>領域別（前年度比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と計算 △ ・図形 △ ・変化と関係△ ・データ活用△ <p>観点別（前年度比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識技能 △ ・思考判断表現 △ ・主体的に学習に取り組む△ <p>という結果になった。</p>
-------------	--	---	---

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・小数の相対的な大きさについての理解や数直線上に示された分数を読み取る問題で目標値を下回った。 ・あまりのある除法の商とあまりを基にあまりの処理をして正しい答えを求める問題は目標値をやや下回った。 ・円の半径についての理解はかなり下回った。 ・重さの単位についての基本的な知識についての問題はやや下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・余りを切り上げて処理する問題を解き、その理由を説明する問題はやや目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生は77.8ポイントと目標値を5ポイント、区の平均も1ポイント上回り、算数の学習に意欲をもって取り組んでいると言える。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は区平均正答率と比べても6ポイント以上高く、6年生は1ポイントと学年によって差がある。 ・6年生は、特に図形の面積や体積を求める問題や比較量と割合から基準量を求める問題など、基礎的な知識が定着していないと解けない問題の正答率がかなり下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は区の平均正答率よりも10ポイント以上高い。 しかし、項目の中でも、平行四辺形の作図などの図形に関わる問題や1目盛りの大きさが違うグラフの間違いを見つける問題、また、伴って変わる2つの数量の関係式から値を求める方法を説明する等、思考が必要な問題は、正答率が低い傾向がある。 ・6年生は、全体的に区の平均か、目標値と同等の結果となっているが、比例や情報を読み取って比較するなど単位量当たりの大きさに関わる問題のポイントがかなり低い。 思考が必要な問題に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は57.7と目標値より6ポイント以上高く、6年生は47.4と1ポイント目標値を上回って同程度という結果だった。 ・学年が上がるにつれて、主体的に学習に取り組む態度の値が下がっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 算数ブロックやおはじき、数カードなどの具体物や図などを用いた活動を取り入れることで、学習内容の理解を促す。 長さ、かさの学習場面では、はじめに予想してから実測することで、量の感覚を身に付け、適切な単位を選んだり単位換算をしたりする力を身に付けさせる。 タブレットドリルやドリルパークなど、取り組み結果がすぐに分かる ICT 教材を中心に活用し、反復練習を行うことで、計算技能を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図、言葉などで自分の考えを表現したり発表したりする個人学習の時間を設定し、その後の交流の時間に考えを整理して伝えることができるようにする。 問題文、場面絵を活用したりして、分かっていることや求めることを理解させてから問題に取り組ませる。 正しく立式するために、文章の中のキーワードや数字にマーキングすることを習慣化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活場面を問題にし、学習意欲を喚起させる。 各自にブロックや数カード、図形カードなどの具体物を操作させ、数量や図形に進んで関わりたいという意欲を喚起する。また、デジタル教材を活用し、興味関心を高める。 学習内容を生活場面で活用して、算数を学ぶよさを実感させる。 ペアでの話し合い活動を行い、友達の考え方からヒントを得たり、新たな考え方を発見できるようにしたりする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> あまりのある除法の商とあまりを基にあまりの処理をして正しい答えを求める計算については、繰り返しプリントなどの課題に取り組ませることで継続して習熟を図るようにする。 小数や分数の相対的な大きさは、必要に応じて数直線を使って考えたり、説明ができるようにしたりして理解を深める。 身の回りにある物の重さを測る活動を通して量感を養う。 円の掲示物などを作成し、直径、半径、中心など算数用語に関心を向けたり意識したりさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 新しく出て来た算数用語は丁寧に扱い、意味の理解を確実にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを図、表、言葉、式などいろいろな方法で表現させ、根拠を明確にして説明できるようにする。 ペア・グループ活動を行い、多様な考えやより良い考え方やより良い考え方に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数に苦手意識があっても、理解しようとしたり、活躍しようとしたりできるように単元ごとにコース分けをして授業を行う。 見通しをもって問題解決に取り組もうとする態度を養うために既習事項を活用するよさや既習事項がどんな内容だったのかを想起できるように掲示物等工夫する。 必要に応じてペアやグループでの話し合いの時間を設定し、友達の考え方からヒントを得たり、自分の考えを発表できる機会をもてるようにしたりする。 タブレットドリル等の活用をして、児童が自らの学習を調整しながら学んでいけるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 図形の面積や体積を求める単元では、実際の大きさの具体物を使って、身の回りの物の面積がどれくらいの大きさなのか量感を掴ませる活動を定期的に行う。・ 比を使った計算をするために、通分や帯分数から仮分数への変換などに重点を置き、分数での計算方法の定着を図る。計算方法だけでなくそれぞれの分数が表している意味なども丁寧に扱う。・ 比や割合を表す言葉や、言葉の表す意味をその都度確認、掲示することで、基本的な知識の定着を図っていく。	<ul style="list-style-type: none">・ 比例、単位量あたりの大きさについて理解させるために繰り返し練習問題を行ったり、具体物を使って考えたり、答えを確認したりする時間を設定する。・ 自分の考えを図、表、言葉、式などいろいろな方法で表現して説明できるようにする。・ ペア・グループ活動で自分の考えを交流する際に、他の児童の考えが、どうして、なぜそうなるのかという疑問を大切に授業を行う。	<ul style="list-style-type: none">・ 既習事項の定着が十分でない領域において、指導時に系統性を意識して、関連のある既習内容（用語や性質や計算の決まりなど）を振り返り、新たに指導する内容に取り組んでみようとする態度を育てる。・ 算数が苦手な子でも授業で活躍できるように単元ごとのコース分けを工夫して行う。・ 必要に応じて少人数での話し合い活動を行い、自分の意見を全体の場で自信をもって発表できるようにする。・ タブレットドリル等の ICT 教材を活用をして、意欲をもって学んでいけるようにする。